

阪神・淡路大震災から  
東日本大震災へ

東日本大震災の被災地では、震災に関する写真や映像などのデジタルデータ収集とそのデジタルアーカイブの構築が、国内外において積極的に進められている。それとともに、災害とその復旧・復興を総体としてとらえ、被災地に生きる人びとの様々の経験や営みをとどめていくためには、現物の災害資料を収集・保存し、後世に引き継いでいくこともまた重要である。

東日本大震災のアーカイブへの高い関心が示すように、阪神・淡路大震災以降、自然災害が頻発する日本社会において、災害を記録し伝えていくことの重要性は社会的な広がりをもって認識されてきている。

このシンポジウムでは、阪神・淡路大震災以降の国内外における災害資料の収集・活用の事例を学ぶとともに、日本社会の中において災害資料のもつ意義を国際的・研究的な視点からとらえ、いかにして災害の記憶を継承し、災害文化を形成していくのかについて考える。

報告

佐々木 和子氏 (神戸大学地域連携推進室)

— 資料をのこす：阪神・淡路大震災の経験から

リズ・マリ氏 (人と防災未来センター研究部)

— 災害研究とアーカイブ：1906年サンフランシスコ大地震を事例として

吉野 高光氏 (双葉町教育委員会)・白井 哲哉氏 (筑波大学図書館情報メディア研究科)

— 双葉町役場埼玉支所における東日本大震災関係資料の保全作業について

柴山 明寛氏 (東北大学災害科学国際研究所)

— 東北大学「みちのく震録伝」の取り組みと宮城県内の震災アーカイブについて

池田 勝彦氏 (国立国会図書館)

— 国立国会図書館東日本大震災アーカイブの取り組みについて

コメント

塩崎 賢明氏 (立命館大学政策科学部)

本間 宏氏 (福島県文化振興財団)

矢田 俊文氏 (新潟大学人文学部)

パネルディスカッション

2013年10月20日[日] 13:00-17:30

会場：神戸大学瀧川記念学術交流会館  
(神戸市灘区六甲台町 1-1)

申込不要  
会費無料

阪神電鉄「御影駅」、JR「六甲道駅」、阪急電鉄「六甲駅」いずれからでも  
神戸市バス36系統鶴甲団地行または鶴甲2丁目止まり行き乗車「神大文理農学部前」下車

■ お問い合わせ

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学大学院人文学研究科 (担当：吉川圭太)  
tel：078-803-5571 / fax：078-803-5501 / e-mail：yoshik@port.kobe-u.ac.jp

主催：科学研究費補助金基盤研究(S)「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」研究グループ  
共催：東北大学災害科学国際研究所、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター、神戸大学震災復興支援・災害科学研究推進室、  
阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会